

資産運用レポート：個人大株主の投資銘柄

はじめに

私たち個人投資家にとって、銘柄選びは永遠の課題です。「どうやって、良い会社を探せばいいのか」頭を悩ませている方も少なくないのではないのでしょうか。

仕事の関係で知っている取引先、街を歩いていて気になったショップなど、投資家のアンテナを通じて良い会社を見つけられれば理想的です。ただ、このやり方には「いつ何時、見つかるか分からない」という欠点があります。

それに対して、ルーチンワーク的に実行できる方法が3つあります。

- (1) スクリーニング
- (2) 会社四季報通読
- (3) ファンドの組入銘柄

1番目のスクリーニングは、ネット上のスクリーニングサイト等を活用します。スクリーニング条件を指定して、それに見合う銘柄を抽出するやり方です。

もしご興味があれば、自分なりのスクリーニング条件をいくつか作成しておき、月1回程度のペースで試してみてください。肩肘を張らず「良い会社が見つければラッキー」という気持ちで行うのがコツです。

2番目の会社四季報通読は、四季報で上場企業全てのページに目を通し、その中から目に付いた会社をピックアップするやり方です。

四季報は年4回発売されるため、3カ月に1回のペースで行うことになります。時間を要するものの、四季報を通読することで知識も増え、初心者が継続すると力のつくやり方です。

3番目のファンドの組入銘柄は、良好なパフォーマンスを達成している株式投信の投資している会社を参考にするやり方です。

月報には上位組入銘柄、運用報告書（年1回発行）には全組入銘柄が記載されています。ファンドマネジャーのインタビュー記事やコメントを参考に「なぜ、この会社に投資しているのだろうか」自分なりの仮説を立ててみると勉強になります。

これら3つを実践できれば、銘柄選びに困らないはずです。しかし、みなさんの中には「もっと良い方法はないのか」と思われている方もいらっしゃるでしょう。

今回の資産運用レポートでは、そういったご要望に応じて、4番目のやり方を紹介します。